

日 時 平成26年10月11日(土)9:00~9:45

場 所 附属中 2年3組教室

指導者 HRT 眞崎 新

ALT ジョナサン・モクスン

本授業の主張点

必然性のあるパフォーマンス課題を提示し、相手の言いたいことを聞こう、分かろうとする標識クイズ(リッスンタイム)を仕組みます。チャレンジタイムでは、リッスンタイムで経験したことをもとに友だち同士の交流活動を解決しようとしている児童の姿をご覧ください。

1 単元名 この標識は何? ~留学生に伝えよう~

2 単元の目標

- 積極的に友だちや留学生に標識を尋ねたり、答えたりしようとする。
- 標識に興味をもち、いろいろな色や形があることに気付く。

3 評価規準「学力デザイン レベル1~2より」

- 外国語を通して聞いたり伝えたりする活動に興味をもち、友だちや HRT, ALT と積極的に関わろうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 色や形を表す表現に慣れ親しみ、英語を聞いて内容を推測し応えたり、言語・非言語で言いたいことを伝えたりして自分の表現を広げようとする。 【外国語への慣れ親しみ】
- 日本や外国の標識に触れることで、違いに気付く。 【言語や文化に関する気付き】

4 単元の構想

(1) 児童について

本学級の児童は、週1時間の外国語活動を経験してきている。その中で様々な題材や英語表現に触れ、中学年の児童の実態に即してアレンジした活動や、他教科と関連させた活動などに取り組んできた。児童の知的好奇心を満たすような「考える要素・発見する要素」を盛り込んだ内容にはより意欲をもって取り組み、活動を通して様々な形で人と関わる体験を徐々に重ねてきている。また、言語・非言語に関わらず、自分の言いたいことを様々な方法でなんとか伝えようとする児童も次第に増えてきている。内容に興味をもち、人に興味をもつことで、相手の言葉や身振りに注意を向け、自分の知っている言葉を見つけながら聞こうとしたり、聞いたことから内容を推測して活動を進めたりする児童の姿も少しずつではあるが、見られるようになってきた。そこで、聞いて分かろうとする力については、リッスンタイムを通して更に高めていきたいところである。

(2) 単元について

本単元では、児童の「聞きたい」「伝えたい」「相手と関わりたい」という思いをもたせるパフォーマンス課題を設定する。具体的には、前期にお世話になっていたALTのリック先生からの「日本の標識の意味が分からないので、標識の意味を教えてください。」というパフォーマンス課題である。このパフォーマンス課題を解決するためには、まず、リック先生から交流会で標識の模様を聞かなければならない。次に、聞き取った標識の情報から意味を考え、知っている英語を使ったり、ジェスチャーで表したりしながら説明しなければいけない。このパフォーマンス課題を通して、何とかして聞こう、何とかして伝えようといった方略的能力が養われると考える。また、

聞いて理解できた、伝えることができたという自分への自信と共に、交流の楽しさや言いたいことが通じたときの喜びを感じるであろう。それが次の活動やコミュニケーションへの意欲につながっていき、中学校英語において再度同じ表現に出会う際に生きていくと考える。

(3) 指導について

指導にあたっては、単元の始めにリック先生から届いたビデオレターを紹介する。交流会を行うことや、リック先生が困っていることを紹介することで、単元のゴールであるパフォーマンス課題を意識させる。そして、児童のコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を高めていく。また、パフォーマンス課題の解決で双方向のやりとりが成立するために、聞いたことのある言葉や知っている英語表現に反応するリスンタイムを授業の前半に設定する。

リスンタイムでは、「この標識は何?」の活動を行う。HRT や ALT の英語を聞いてどの標識のことを言っているのかを考えていく。英語での説明の中から、自分が聞いたことのある言葉を探しながら聞いたり、Word Bank から探したりしながら活動を進めていく。リスンタイムでは、どの標識か分かるようにたくさんのヒントを一度に与えるのではなく、児童とのやりとりで答えが分かるように進めていく。児童は、少ないヒントの中では答えが導き出せないで、「What color?」や「What shape?」などの具体的な質問をするようになる。このリスンタイムのやりとりを通して知った方略的を使うことで、チャレンジタイムを解決していく。

チャレンジタイムでは、ランダムに標識カードを配り、何の標識を持っているのかを当てる活動を設定する。相手が持っている標識カードが分からないので、「What color?」や「What shape?」などの質問をする。質問をされた側は、質問の内容を理解し、何とかして答えることで双方向のやりとりが成立する。

このリスンタイムの活動とチャレンジタイムの活動を行うことによって、最終的な目標である交流会でどのような方法で聞いたらよいのか、どのような方法で伝えたらよいのかといった方略的能力の育成につながっていく。

また、単元の中で、ALT との TT で進める活動において、ALT は英語を多く聞かせる・児童の方略的能力を引き出すコミュニケーションパートナーになる。HRT は活動を進行する・児童の理解の程度を観察し、自らコミュニケーションのモデルになるように、それぞれの特性を生かせる展開を心がけるようにする。

5 単元計画（全4時間）

※太枠囲みは視点にそった授業

時	活動名およびねらい	主な活動および言語材料	指導上の留意点
1	色と形 <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題を提示しゴールを確認する。 色や形を表す表現に慣れ親しみ、英語を聞いて応えたり、それらを用いて友だちと一緒に活動を楽しんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の標識を見ていろいろな色や形があることを知る。 ゲームや・記憶クイズを通して、色と形を表す表現に慣れ親しむ。 Circle Triangle Star Square Cloth Moon Red Blue White Black Yellow	<ul style="list-style-type: none"> 親しみやすい話題で、聞こうとする意欲を高める。〔関〕 児童が自然に色や形の表現を聞いたり、口にしたりして慣れ親しむことができることを意識してゲームを仕組む。 【慣れ親しみ、気付き】
2 本時	この標識は何? (リスンタイム) <ul style="list-style-type: none"> 色や形を表す表現に慣れ親しみ、英語を聞いて応えたり、友だちと協力したりして課題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> リスンタイムの標識クイズを聞き、色や形の英語表現に慣れ親しむ。 リスンタイムを通して、聞いたことのある言葉を探しながら聞き、英語表現に慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に、聞きたい・伝えたいという思いをもたせられるようにリスンタイムを仕組む。 【慣れ親しみ】 英語だけでなく、非言語表現も使って活動できるよう、

<p>標識を紹介できるかな。 (チャレンジタイム)</p> <ul style="list-style-type: none"> 知っている英語表現や身振りなどを使って進んで相手に情報を尋ねたり、自分の情報を伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> リッスンタイムを参考にしながら、「この標識は何でしょう」を行い、友だちと交流する。 チャレンジタイムの活動で、英語表現に慣れ親しむことができたか自己評価を行う。 	<p>HRT がコミュニケーションモデルを示すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童に、「聞きたい」「伝えた」という思いをもたせる活動を仕組む。 <p style="text-align: right;">【慣れ親しみ】</p>
<p>3 いろいろな標識を紹介しよう。 (プチシミュレーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> 標識を表す色や形の英語表現に慣れ親しみ、標識の紹介を聞いてアドバイスをしたり、質問したりする。 プチシミュレーションをもとに発表内容を考え直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介したい標識の表し方をまとめ、紹介の準備をする。 他のグループの発表を聞いて、質問したり、アドバイスをしたりする。 プチシミュレーションをもとに発表の仕方や、標識の表し方をもっと分かりやすく紹介するための工夫をこらす。 	<ul style="list-style-type: none"> 標識の紹介を事前に考えることで、しっかりと伝わる表現方法がないか考えさせる。 <p style="text-align: right;">【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 標識の紹介を工夫させるために、プチシミュレーションを仕組む。 <p style="text-align: right;">【関・意・態】</p>
<p>4 リック先生と交流しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな標識が分からないのかを質問して、聞いた標識の意味を伝える。 交流会を思い出し、自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> リック先生の知りたい標識を聞き出し、交流する。 聞き取った標識の意味を分かりやすく伝える。 リック先生の国の標識について質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流会では、なるべく日本語を使わないように促す。 <p style="text-align: right;">【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の標識と外国の標識の違いに気付く。 <p style="text-align: right;">【気付き】</p>

6 本時の指導（本時 2 / 4）

(1) 目標

- 色や形、標識の意味を表す英語表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

(2) 展開

※太枠囲みは視点に関わる部分

学習活動と児童の反応	教師の働きかけ (○) と形成的評価 (◆)	
	H R T	A L T
<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 課題と Word Bank の確認をする</p>	<p>○ 楽しい雰囲気を始められるように声を掛ける。</p> <p>○ 聞いたことのある言葉があったときはチェックをするように声を掛ける。</p>	<p>Good morning. How are you? – I'm fine.</p> <p>What day is it today? – Saturday!</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室に掲示している Word Bank をヒントにしてよいことを伝える。
<p>パフォーマンス課題：リック先生に日本の標識について教えてあげよう。</p> <p>リック先生から「日本の標識の意味が分からないので教えて下さい」というお願いがありました。そこで、今度の交流会で、リック先生にどの標識が分からないのか色や形を質問しましょう。そして、聞き取った標識から意味を考えてリック先生に教えてあげましょう。</p>		
<p>3 リッスンタイムをする。</p> <p>この標識は何？</p> <ul style="list-style-type: none"> 「この標識は何？」クイズを聞き、Word Bank の中から答えを探す。 	<p>○ 非言語メッセージの有効性を感じられるように、ジェスチャーを使って、何の形を示してい</p>	<p>○ 標識クイズを英語で出題する。</p> <p>○ 児童に質問し、答えを繰り返</p>

<p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の英語を聞いて、何の標識かを考える。 ・ 友だちと協力しながら活動する。 ・ 分からない言葉が聞こえたら、Word Bankで確認する。 ・ ヒントがほしいときは具体的にどんなヒントが必要か考え質問する。 ・ 聞いたことのある英語を探そうとする。 	<p>るのか質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が日本語で答えた場合には、それを一度受け止めてから英語で返す。 ○ 分からない言葉や聞いたことがない言葉が出てきたら、Word Bank をヒントにするように声かけをする。 ○ どんなヒントが必要か考えさせるために、答えが導き出せるような質問の内容を考えるように促す。 ○ 答えが出ないときはヒントの言い方や聞き方の例を示す。 	<p>返し発音する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が答えたら、標識カードを出すとともに、標識の英語表現を聞かせる。 ○ 英語で標識の内容を説明し、しっかり聞いて活動できるようにする。 ○ 2度繰り返し答えたり、ゆっくり説明したりして話すようにする。 ○ 非言語メッセージの有効性を感じさせるために、ジェスチャーを使って答える。
<p>4 チャレンジタイムをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「標識を紹介できるかな？」を行う。 ・ ランダムに配られた標識を見て、どのように伝えたらよいか考える。 ・ 教室内を歩きながら、出会った友だちに相手が持っている標識を質問したり色や形を答えたりしながら、交流する。 ・ 答えが分からなかったときは他の質問をする。 ・ 交流したら標識カードを交換して、他の友だちと交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ALT とのデモンストレーションでゲームの説明をする。 ○ 標識紹介で分からなかった場合は、他の質問をすればよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が知っている色や形をヒントに出しながら標識クイズを行うように支援する。答えが出ない場合は、英語やジェスチャーで紹介すればよいことを伝える。
<p>5 ワークシートに今日の活動の気付きを書き、チャレンジリストに自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Word Bankの中から、聞こえてきた言葉にチェックをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞いたことのある言葉に反応できたか確認させるために、Word Bank にチェックをする。 ○ リッスンタイムやチャレンジタイムでの気付きや感想を出し合い、聞いて反応できたことをほめ合う。 ○ 次の時間の見通しを持たせるために、パフォーマンス課題を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞いたことのある言葉に反応できていた児童を取り上げ、がんばっていたことをほめる。 ○ 挨拶やアイコンタクトなどコミュニケーションに必要なことをあげ、コミュニケーションで大事なことを伝える。
<p>◆標識を紹介する活動で色や形の英語表現に慣れ親しんでいるか。 [観察・ワークシート]</p> <p>A: 様々な方法を使って、自分から進んで相手と情報を伝え合ったり、色や形などこれまでに慣れ親しんだ表現を使ったりしている。</p> <p>B: 質問の内容が何となく分かり、友だちと相談したり、協力したりしながら活動している。</p> <p>→ 聞いたことのある言葉を探しながら聞くように促したり、Word Bank から英語表現を探したりするように促す。</p> <p>C: 何とかして聞いたり、伝えようとしたりしようとしめない。</p> <p>→ Word Bank から相手が言っている言葉を探したり、友だちに相談して活動したりすることを促す。</p> <p>→ HRT や ALT がコミュニケーションの相手になったり、身振りなどの非言語手段を使うことを促したりする。</p>		